

変わってゆく下諏訪

大門 河西 健雄

私の家の屋号は、下馬本屋という。その所以は春宮神社前の下馬橋の傍らに在るからである。下馬橋とはかつて春宮への参拝者誰もがこの橋の袂で馬を降り、神社までの参道を歩いて進まねばならない仕来りになっていたからだと言われている。

参道の脇には杉の巨木が並び、肅然としていてある種の神々しさを感じていた。しかし昭和九年の台風でその多くが倒れ、僅かに残った杉も伊勢湾台風でその全てを失い、その後は次々と民家が建ち始め、今ではその姿を留めていない。

諏訪大社下社では、神が半年ごとに秋宮と春宮で入れ換わる遷座祭が行われる。それは自然界の摂理に添った祭りであり、宝殿に祀られた御霊代の神座が、春から夏は春宮へ、秋から冬は秋宮へと遷るのである。そして諏訪大社、最大の祭りは七年に一度の御柱祭である。

ながら春宮を見渡しておられる。春には木々の緑を、秋には紅葉の赤の色彩を楽しむことができ、今では下諏訪の観光名所になっている。

ル時代が終わりを告げた一九八〇年代にはその拠点を東南アジアへと移していった。

今年から近所の商店をやっている方たちと、一緒に畑もほじめました。商店をひらいたその翌年、御田町商店街が、がんばる商店街の三〇選に選ばれ、大変ほこりに思いました。

この地方でかつて最盛期だった生糸産業も戦前の製糸不況で一挙に沈没し、今では片倉館がその姿を留めているだけとなっていました。戦争中は軍需転換を図ったが、終戦を機にそれらも消滅。次は精密・光学産業へと変わり、カメラやオルゴール等の産業に転じていった。しかしこれらの企業や工場も、バブ



下馬橋

諏訪湖博物館赤彦記念館の7月の休館日は、7・14・22・28日です。

小さなこの町で



御田町 百瀬 裕子

御田町がとても好きです。この町に出入りしはじめたきっかけは、「すみれ洋裁店」という写真集の撮影のためでした。本が完成した二〇一二年の夏に、すみれ洋裁店で小さな写真展をしました。御田町は街並みがレトロで味わいがあり、手仕事をしている作家さんのお店がたくさんある、小さいけれどとても魅力的な町です。

二〇一二年の秋から縁があった諏訪の学校で教えることになり、安曇野から週に二回ほど通うことになりました。この町の友人の洋裁店は通勤途中の息つく場所となりました。また、

「すみれ洋裁店」の本を見た御田町の町おこしをやっている方たちから、「そのDM(ダイレクタメール)やマップに載せるための写真を撮ってください」との依頼があり、撮影のために町を散歩すると、いろいろ発見があり、ますますこの町が好きになりました。

ある日、すみれ洋裁店で「通勤が大変で、自分のできる仕事量が減ってしまった気がする、この辺に仕事場があつて、少し休んで帰ればいいのに。」と愚痴をいうと、「前の物件が空いているよ。」と教えてくれ、すぐ二人で見にいきました。最近までクリーニングの旗がはためていたその空き店舗は、小さいけれど、四角い空間で何か

面白いことができそうな予感がしました。それで、まずは二〇一三年の五月くらいから借りてみることにしました。

学校に行く前や後にその場所です仕事をしたり、撮影や展覧会の用意もここでしました。また、夜、近くで会議をする日や、仕事を一生懸命しすぎて運転が心配な日は、近所の温泉に入り泊まります。この場にアトリエがあることで、体が随分と楽になりました。ずっとカーテンを閉めて撮影したり、グラフィックデザインをしたりしていました。

ここは商店街の一角だから商店の一つとして、開けてみようと思いついたのが二〇一三年の夏。自分のポストカードや自分で作った本、所属ユニットPom Pom(ポムポム)のクラフト作



写真展 「すみれ洋裁店」より

品を並べ、壁には自分の写真作品を飾り二〇一三年の一月一日にoffice&shop&ギャラリーとしてオープンさせました。

オープンニングパーティーを平和館という御田町の公民館で行ったとき、町の方たちが差し入れを持ってきてくださったり、連携プレイでその後かたづけをしてくださり、御田町の方たちの温かさに感動しました。店は一人ですべてやっているので毎日開けることはできませんが、ぼつりぼつりと興味のある方が来てくださいます。また、近所の商店の方と一層交流を持つことができようになりました。

今年から近所の商店をやっている方たちと、一緒に畑もほじめました。商店をひらいたその翌年、御田町商店街が、がんばる商店街の三〇選に選ばれ、大変ほこりに思いました。

これからも、とても小さなお店ですが、御田町商店街の一点舗として粘り強くお店を続けていこうと思っています。